Sienna's Watching
シーナズ・ウォッチング

128 人にきいた「日本酒キャップ」と「ワイン栓」のアンケート@ FOODEX 2025

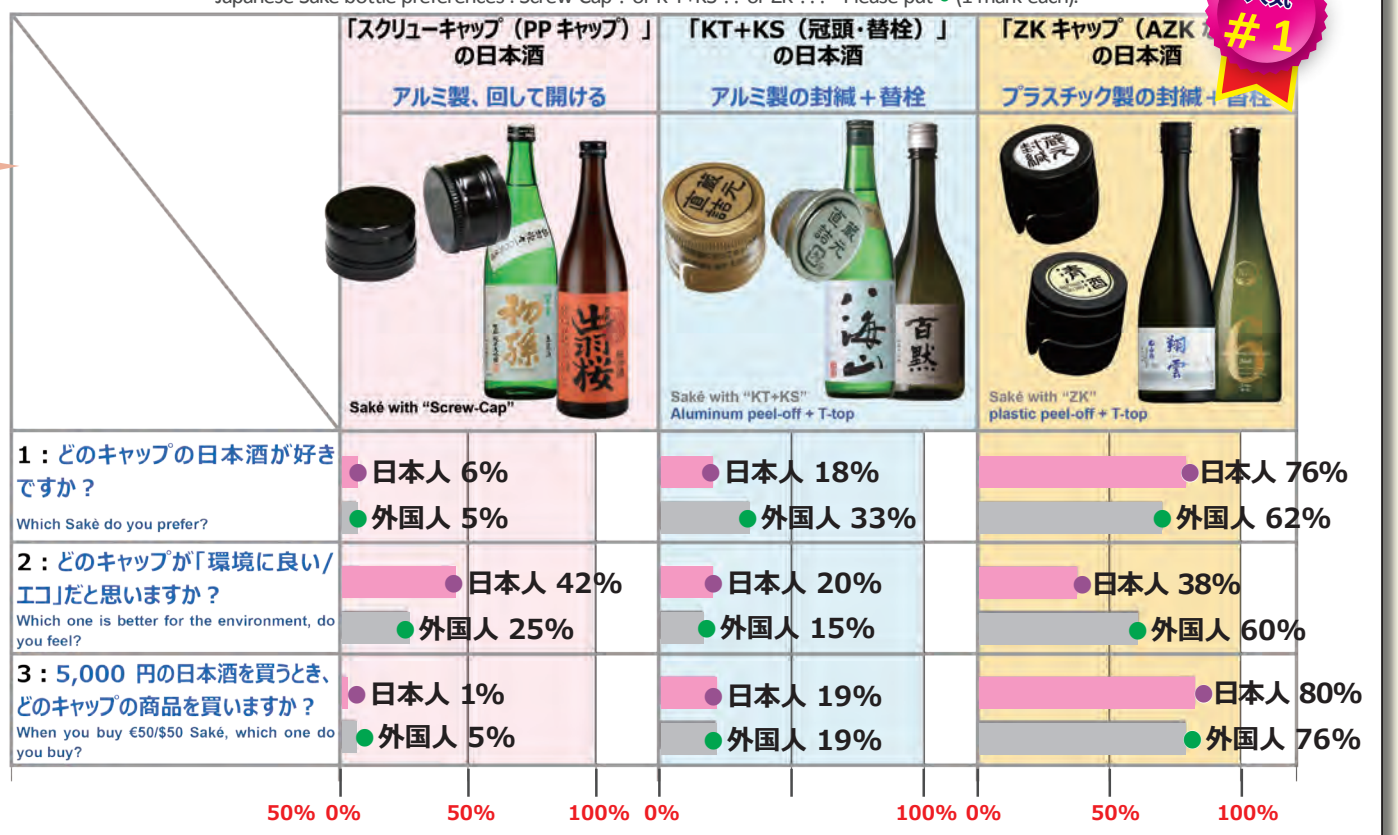
A Survey about Saké & Wine Closure preferences

●チャーオ、シーナです。今年の FOODEX 2025 では、2 つのアンケート調査を実施しました。前号では『105 人にきいた「缶のお酒」アンケート』の結果を紹介しましたが、今号では、もう一つの調査、『128 人にきいた「日本酒キャップ」と「ワイン栓」のアンケート』の結果を報告します。●写真のようなアンケートボード（日本語版と英語版）で、各人の好み・意見に合う選択肢にシールを貼ってもらう形式。日本人 79 人、外国人 49 人、合計 128 人の意見をまとめて棒グラフでまとめました。●クロージャメーカーのきた産業としては手前ミソですが、「クロージャ（キャップ・栓）」はパッケージのカナメです。パッケージデザインでは、「びん」や「ラベル」を議論する方が多いですが、「クロージャ」の選択が商品価値を大きく左右します。(layout & text : Sienna K. Emiri)

日本酒のキャップ？

日本酒（720ml = 4 合びん）のキャップは、「スクリューキャップ」？「KT+KS」??「ZK キャップ」???

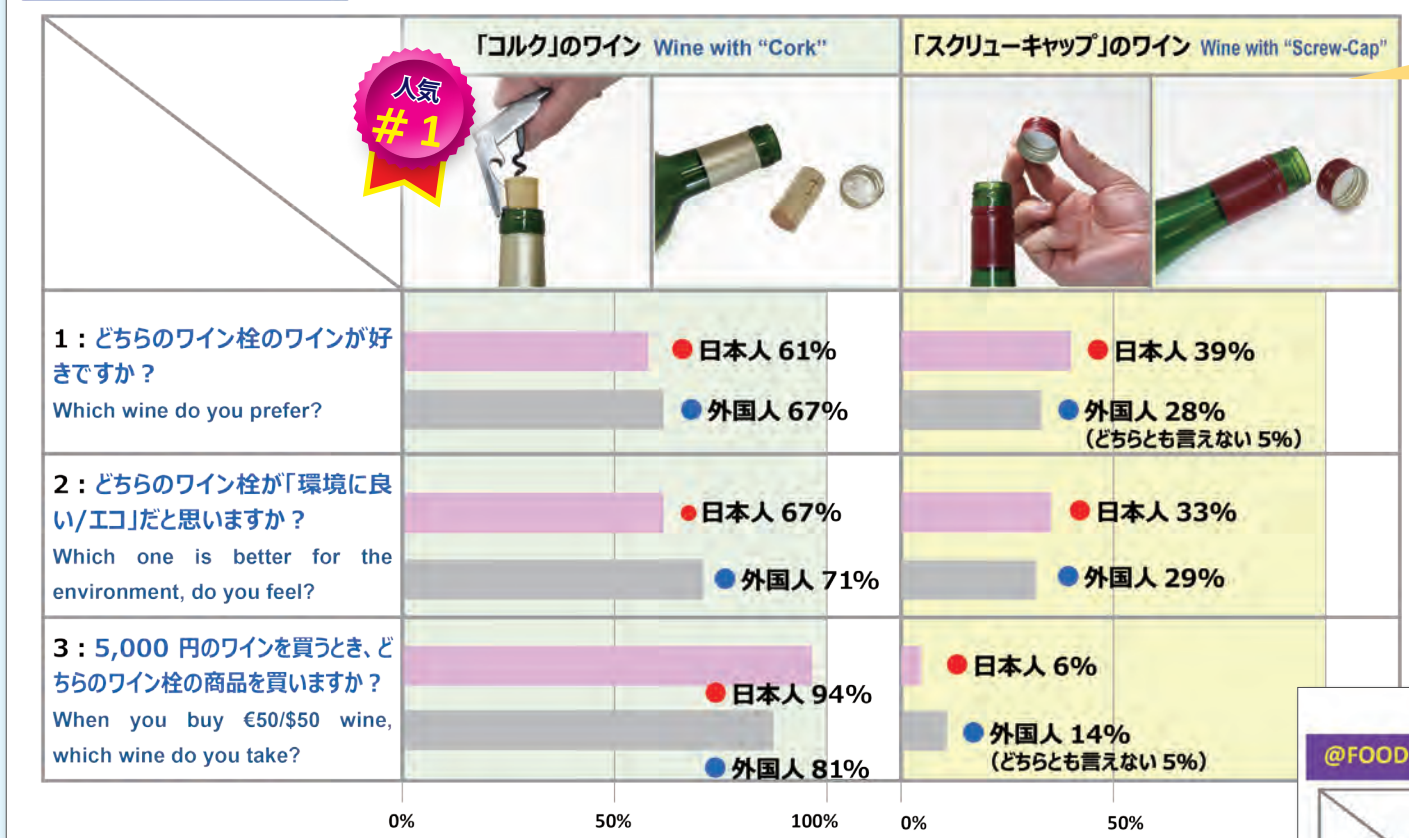
●各設問でシールを一つ貼ってください。
Japanese Saké bottle preferences : Screw-Cap ? or K T+KS ?? or ZK ??? Please put ● (1 mark each).



日本酒のキャップ？ ■720ml(4 合）びんのキャップ、という前提で調査しています。外国人の多くは「PP(スクリュー)キャップ」は知っていても、「KT+KS（冠頭・替栓）」と「ZK シリーズ」を知らないので、実際の商品を見せて、開封体験もしてもらったうえで、回答してもらいました。■「どのキャップの日本酒が好きですか？」と「5,000 円の日本酒を買うとき、どのキャップの日本酒を買いますか？」の 2 つの設問で、「ZK」シリーズが圧倒的支持。日本人も外国人も同じ傾向でした。現在主流である「PP キャップ」は、「5,000 円の日本酒を買うとき、どのキャップの日本酒を買いますか？」の設問で、日本人 1%、外国人 5%という低い支持率でした。■なお、外国人の方で、「PP キャップの PP バンド部が垂れ下がる※のはなぜ？危ないのでは？？」、という方が何人かいました。（※日本の PP キャップの PP バンド部には縦スプリットが入っていて、開封後はびん口から除去できるようになっています。ガラスびんリサイクルを容易にする目的ですが、海外でこのタイプのスクリューキャップはあまりない。）

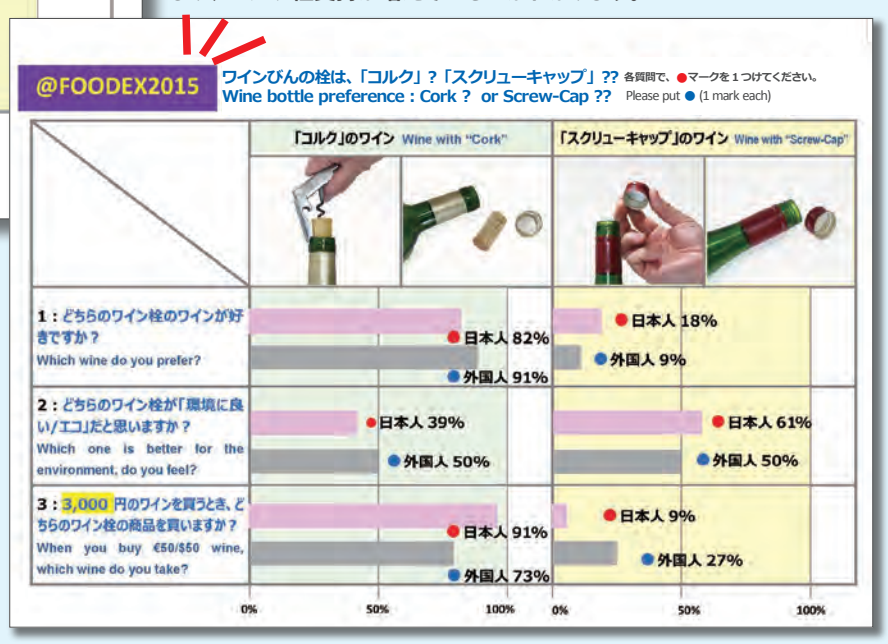
@FOODEX2025 ワインびんの栓は、「コルク」？「スクリューキャップ」??

各質問で、●マークを 1 つけてください。
Wine bottle preference : Cork ? or Screw-Cap ?? Please put ● (1 mark each)



ワインの栓？

ワインの栓？ ■ちょうど 10 年前の FOODEX 2015 でも同じ調査を実施していて、当時の結果を右下に掲載しています。「どちらのワイン栓のワインが好きですか？」についての日本人の回答は、2015 年は「コルク 82% vs スクリューキャップ 18%」だったものが、2025 年は「コルク 61% vs スクリューキャップ 39%」と変化しています。外国人も概ね似た傾向で、スクリューキャップ支持派が増えていますが、コルクが多数派を維持しているのがわかります。■「どちらが環境に良い / エコ?」の設問では、2015 年はスクリューキャップの支持がやや多かったですが、2025 年はコルクの支持が増えています。近年、ポルトガルのコルクメーカーは、「カーボンフットプリントがマイナス」であるとアピールしています。■「5,000 円のワインを買うとき、どちらのワイン栓の商品を買いますか？」（2015 年は「3,000 円のワイン」）という設問では、日本人も外国人もコルク栓が圧倒的支持。2015 年より、コルク栓支持が増えているのがわかります。



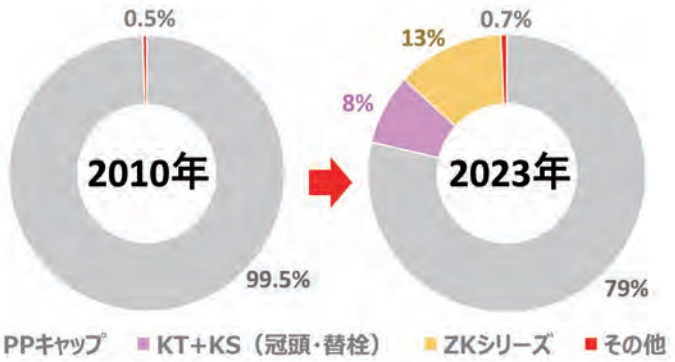
●回答いただいた方のプロファイル

	日本人					外国人			総合計
	関東圏 30 歳代以下	関東圏 40 歳代以上	関東以外 30 歳代以下	関東以外 40 歳代以上	合計	European/ American	Asian/ African	合計	
男性	7 人	20 人	10 人	17 人	79 人	27 人	12 人	49 人	128 人
女性	7 人	7 人	6 人	5 人		7 人	3 人		

Sienna's Watching
シーナズ・ウォッチング

日本酒キャップの考察

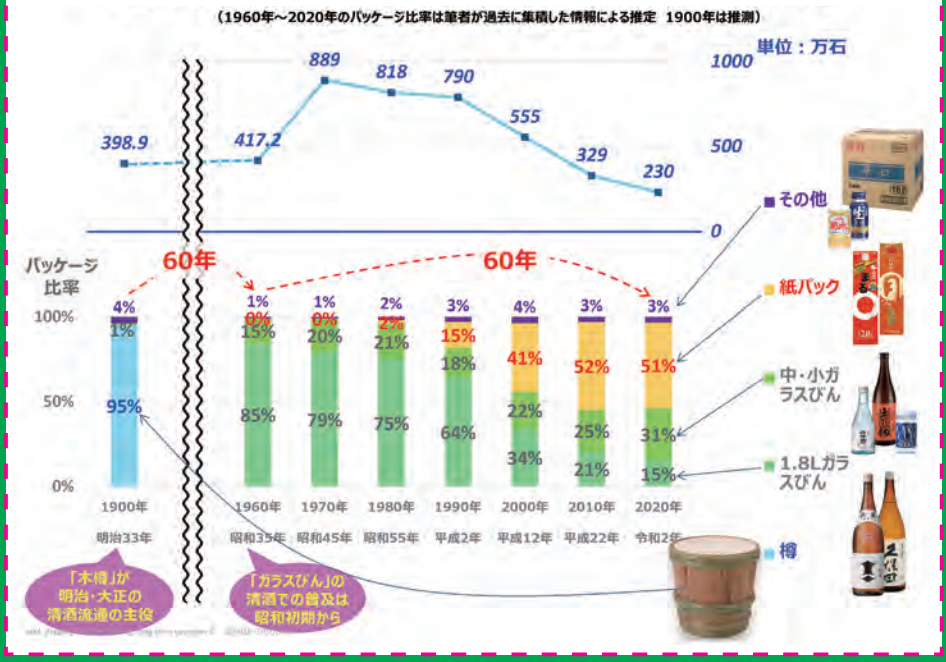
「清酒 720ml びん」のキャップシェアの 13 年の変化



清酒の 720ml びん（4 合びん）の王冠・キャップ：2010 年 /1 億 600 万個程度
→ 2023 年 / 1 億 1,600 万個程度、比率：Kita Sangyo による推定

（上のグラフ）2010 年ころまでの 40 年ほど、日本酒の 720ml びんはほぼ「PP キャップ口」でしたが、現在では「サケびん口」（一升びん口規格）が 2 割程度まで増えています。背景には、1）八海山、真澄、獺祭、黒龍など有力ブランドが「サケビン口」を採用されたこと、2）21 世紀に入って大きく伸びた輸出市場、特にヨーロッパ市場でプレミアム商品には「PP キャップ口」より「サケびん口」が好まれること、などがあります。

（下のグラフ）日本酒の流通容器が、「樽」から「ガラスびん」に本格的に切り替わり始めたのはそれほど昔ではなく、100 年ほど前からだそうです。清酒生産量がピークだった 1970 年代にはほぼガラスびんとなって、全出荷の 7 割以上が「一升びん」詰めでした。半世紀後の現在は「紙パック」が 5 割以上で、「ガラスびん」は 40% 台。樽が 400 年ほど、ガラスびんが 100 年ほども続いたので、次の容器に代わるタイミングになっているのかもしれません。しかし、日本酒のグローバル化で、今後はガラスびんの役割が大きくなると思いますし、ガラスびんの中では 720ml が主流になると考えられます。

(text = Sienna K. Emiri + t.kita)

「清酒出荷石数」と「パッケージ比率」の 60 年の変遷